

地域研究と 教育

vol.
2



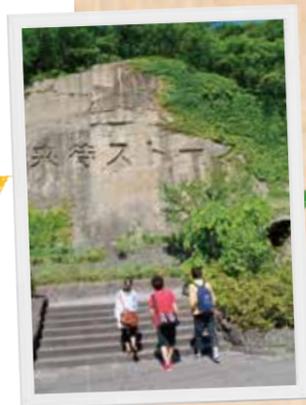
〒690-0044

島根県松江市浜乃木7-24-2

TEL 0852-26-5525

FAX 0852-21-8150

<http://matsuec.u-shimane.ac.jp>



「地域研究と教育 Vol.2」

はじめに

島根県立大学短期大学部松江キャンパスは、健康栄養学科・保育学科・総合文化学科の3つの学科から構成されており、教育研究にあたる教員は35名で組織されています。

この35名の研究は、それぞれの専門領域の学問的な課題探求によるものであり、松江キャンパス全体で、人間諸科学の多彩な領域の研究がおこなわれています。

そのなかから、近年行われた「地域」に特化した研究と、地域貢献を目指した研究教育活動を、「地域研究と教育Vol.2」と題し、平成24年度版の内容を更に充実させて編集しました。地域の活性化を支える松江キャンパスの教職員一同、さらに学生の活動意欲の高さを、地域の皆様に知っていただきたいと思ひます。

松江キャンパスは、平成26年4月1日に、「しまね地域共生センター」を開設します。

このセンターは、平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の採択を受けて、松江キャンパスを拠点とする、地域の「ともに支え合う学びのプラットフォーム」として設立するものです。私たちは、地域と大学の一体的な教育研究活動を展開していきます。

「地域人材の育成・雇用機会の創出」「地域活性化・地域支援の取り組み」「社会連携・地域産業の振興」といった大学COC(Center of Community)の目標は、これまでの松江キャンパスの活動エネルギーの方向性と完全に一致しています。

今後とも、さらにこの方向性を見極めながら、地域との連携を深め、歴史ある「地域大学」として地域に貢献していきますので、地域の皆様には、どうぞさらなる連携をいただきますよう、よろしくお願ひいたします。

平成26年3月

松江キャンパス副学長 山下由紀恵



Contents

健康栄養学科 地域の「食」と栄養の専門研究

- 1 島根県産つや姫の
おいしさに関する研究 02
- 2 西条柿の食品開発研究 02
- 3 「しまね和牛」の食味研究 03
- 4 地域交流型食育推進の検討 03
- 5 地域振興に生かす特許 04
—— 教員と学生による患者会支援活動 ——
- 6 小児糖尿病大山サマーキャンプ 04
- 7 炎症性腸疾患患者会食事学習会 04
—— 学外への協力事業 (市町村との連携) ——
- 8 「やすぎどじょう」を使用したレシピの考案 05
- 9 松江市健康フェスティバルへの参加協力 05
- 10 松江市の食育推進実行部隊である
「食部会」での活動 05
- 11 うんなん鯖パンプロジェクト
・うんなんスイーツの杜プロジェクト ... 05
- 12 「野菜産地ツアー」への参加協力 ... 05
- 13 米のモニタリング調査・食味調査の実施 ... 06
- 14 第4回食育推進全国大会 06
- 15 1日食品衛生監視員 06
- 16 コープフェスティバルへの参加 06
—— 学外への協力事業 (島根県・その他の機関との連携) ——
- 17 しまねオーガニックフェア 06
- 18 「まつえ駅前活き活き青空」への参加協力 ... 07
- 19 美味しさと健康のサイエンス 07
- 20 乃木小学校での食育授業 07



保育学科 地域の子どもと「保育」の支援研究

- 1 ほいくまつり 08
- 2 虐待の早期発見と支援に向けて 09
- 3 島根県保育所(園)
幼稚園造形研究会への協力 09
- 4 保幼小連携教育体制における
多様性の研究 10
- 5 保育士・幼稚園教諭の
採用実態と人材養成の課題 10
- 6 島根県における
保幼小連携教育の現状と課題 10
- 7 保育専門職育成のための
「表現とコミュニケーション」
ワークショップ・プログラムの開発 ... 11
- 8 「幼保一体化保育」体制の現状と課題 11
- 9 しまね子育て支援専門職ネットワーク構築に向けた
領域横断的カンファレンス・プロジェクト 12
- 10 教員と学生による地域支援ボランティア ... 12



総合文化学科 「地域文化」の資源的活用と研究

- 1 小泉凡教授のハーン研究と地域貢献 ... 13
- 2 へるん探求 13
- 3 出雲神話翻訳研究会 13
- 4 「魅力ある松江の観光を考える」
シンポジウムへの参加 14
- 5 観光フィールド・トリップ 14
- 6 アジア文化交流 14
- 7 アジア文化演習 15
- 8 地域探検学 15
- 9 日本古典文学を歩く 15
- 10 日本文化演習 15
- 11 おはなしレストラン、はじまるよ! 16
- 12 絵本専門図書館
「おはなしレストランライブラリー」の誕生 ... 16
- 13 全国図書館大会島根大会における
分科会の共催 17
- 14 のんびり雲 18



社会教育 新たな学修ニーズへの対応

- 1 椿の道アカデミー 19
- 2 卒後教育としての
「栄養士のためのステップアップ講座」... 19
- 3 社会人の学び直しニーズ対応
「子育て支援専門職再教育」事業 ... 20
- 4 地域資源と協同的体験を保育教育課程に
生かす「ふるさと教育」の研究
— 島根県益田市モデル — 21

健康栄養学科

1 島根県産つや姫の おいしさに関する研究

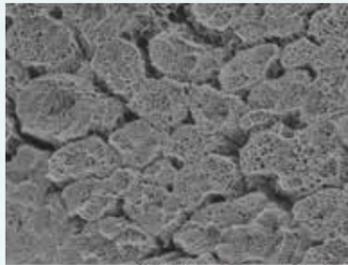
—文部科学省 地(知)の拠点整備事業
島根県、島根県農業技術センターとの共同研究—

島根県では、温暖化により品質の低下している平坦地域の「コシヒカリ」に替わる米として、品質が安定し、良食味米である「つや姫」の普及拡大に取り組んでいます。そこで、H25年度から、島根県、島根県農業技術センター、本学健康栄養学科の教員及び学生が共同で、「つや姫」の食味の「科学的な評価」に取り組むこととしました。



官能試験

健康栄養学科学生全員が、「コシヒカリ」、「つや姫」、「きぬむすめ」を実際に食べて評価し、粘り、香、味などのおいしさを構成する要素を検討しました。



理化学分析

電子顕微鏡で炊飯米でんぷん粒の構造を観察
テンシプレッサーで炊飯米物性(粘りと硬さ)を機械的に測定しました。

2 西条柿の食品開発研究

—地域貢献プロジェクト—

平成23年度から継続して、西条柿熟柿の安定生産技術の開発、その熟柿から作ったピューレを利用した食品の開発に取り組んでいます。平成25年6月には、東出雲の柿農家と共同で熟柿ピューレを用いた2種類の飲料、炭酸飲料「酢(し)まね柿サイダー」と柿果汁入り飲料「酢まね柿っこ」の商品化を行いました。これらの飲料には、松江市東出雲町産の西条柿から作った熟柿ピューレが10～30%含まれています。熟柿ピューレ入りの飲料は全国的でもたいへん珍しいものです。



3 「しまね和牛」の食味研究

—島根県畜産技術センターとの共同・受託研究—

官能試験



健康栄養学科学生全員が参加のもと、柔らかさ、ジューシーさ、うまみなどの、おいしさを構成する要素を、実際に食べて評価する官能試験を実施しています。

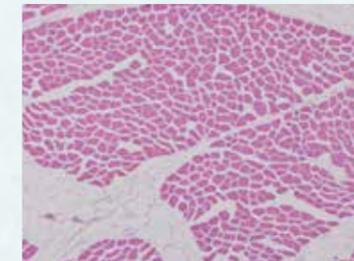
平成18年度から継続して「しまね和牛」のおいしさに関わる要因を探っています。平成24～25年度は「しまね和牛」のおいしさを、肥育期間に着目して様々な角度から科学的に研究しました。今後も島根の食のおいしさや機能性を研究・発信します。

理化学分析



成分・組成

◆どんな成分が含まれていると食味が良いのか？



肉質(筋繊維)の評価

◆おいしい食肉の肉質はどんな構造なのか？



物理的性質

◆食肉の柔らかさは？
◆どんな調理方法でおいしくなるのか？

4 大学と行政が連携して行う 地域交流型食育推進の検討

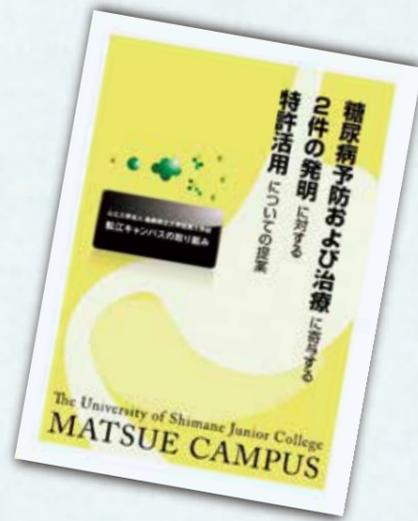
—地域貢献プロジェクト—

若い世代の食の乱れが問題となっています。本学では、平成23年度から、より実効性のある食育を目的とし、松江市と連携して、地域交流型の食育を試みています。大学は地域と繋がる場、学生は地域住民と交流することにより食の大切さを学び、学生から学生、大学から地域へと活動の輪を広げ、世代間の垣根を越えた新たな食育の展開を目指しています。



5 地域振興に生かす特許

島根県は全国的にも糖尿病有病率の高い県です。ここ島根で糖尿病患者数の減少やそれによる医療費の削減、健康寿命の延伸が実現することを目指して、糖尿病予防のための研究を行っています。研究成果をもとに、平成24年に2件の発明に対する特許を取得しました。現在は、この特許を活かして、産学官の連携による、糖尿病予防のための栄養価計算ソフト、経管栄養剤の実用化を検討しています。



教員と学生による患者会支援活動

6 小児糖尿病大山サマーキャンプ

毎年夏休みに、1型糖尿病の子ども達が、学生ヘルパーや医療スタッフとともに集団生活を行う、大山サマーキャンプが開催されます。糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を身に着けることが目的です。ここに、教員と2年生が、食事係として毎年参加しています。食事は、子ども達にとって最大の楽しみで、また、病気の治療に欠かすことができない大切な物です！ 暑い厨房での作業は大変ですが、やりがいがあり、貴重な勉強の機会となっています。



7 炎症性腸疾患患者会 食事学習会

炎症性腸疾患は原因不明の難病です。この病気にかかると、厳しい食事制限をずっと強いられることとなります。島根県には、松江、出雲、浜田、益田に炎症性腸疾患患者会があり、年1回程度、「上手においしく食べるための食事学習会」が開催されています。そこに、教員と学生が参加し、患者さんやスタッフと一緒に、作って、味わって、学んでいます。



学外への協力事業（市町村との連携）

8 安来市 平成25年度 「やすぎどじょう」を使用したレシピの考案

やすぎどじょうの販売促進と話題提供を目的に、学生がやすぎどじょうを使用したレシピの考案をしました。2年生は、どじょうを春巻きの皮で包み揚げ、独自のソースをディップにして食べる「どじょうスティック」を、1年生はどじょうをオイルサーディンの要領で油漬けし、ピザ生地のにせた「どじょうアンpizza」を提案しました。最初は、どじょうの見た目に圧倒されていましたが、試行錯誤を繰り返し、今までのどじょうレシピとは一味違った若者らしいレシピが完成しました。この作品は、安来市長にもお披露目、試食をして頂きました。



9 松江市 平成24年度 「松江市健康フェスティバル」への参加協力

松江市では、市民参加で健康気運を高めるため、毎年「松江市健康フェスティバル」が開催されます。平成24年度は健康栄養学科教員と学生で参加し、『親子で作ろうキャラクターごはん〜ごはんにまほうをかけましょう〜』と題して、子ども達に食育を行いました。地域の方との交流の中で、親子で一緒に作って食べる楽しさや、食の大切さを学ぶことができました。



11 雲南市 平成21年度・22年度 うなんん鯖パンプロジェクト・うなんんスイーツの杜プロジェクト

雲南市で有名な焼き鯖を使ったパンを考案する「鯖パンプロジェクト」では、サバピザや、サバティーヤ等ネーミングからプロも驚くアイデアを出し、雲南市でできた野菜を入れたスイーツを考案する「うなんんスイーツの杜プロジェクト」では、雲南市のほうれん草や人参を用いた桜餅やシフォンケーキ等を考えました。4月の雲南さくら祭りでは、その作品の販売のお手伝いをしました。



10 松江市 平成21～24年度 松江市の食育推進実行部隊である「食部会」での活動

松江市の食育推進実行部隊である「食部会」に、平成21年度より健康栄養学科の学生がメンバーとして加わり、大学生の視点を取り入れた松江市の新たな食育に取り組みしました。平成22年度は、男子大学生を対象として、「つくってつくって男子ごはん」と題して料理教室を開催し、あじのさばき方や、肉じゃが、味噌汁等の日本食についてみんなで勉強しました。平成24年度は、松江市立女子高等学校の3年生へ「卒業に向けて今、学んでおいて欲しいこと ―大学生からのメッセージ―」と題して食育授業を行いました。

12 奥出雲町 平成22年度 「野菜産地ツアー」への参加協力

奥出雲町主催で開催された「野菜産地ツアー」に参加しました。このツアーは、環境にやさしい農業を知ってもらうことを目的に平成21年度から開催されています。奥出雲町の生産現場や販売先である松江市内スーパー等を一般の消費者の方々と一緒にまわり、収穫体験や地元野菜を使った昼食会等を楽しみました。生産者や販売者、一般消費者の方々と交流し、地元産物の素晴らしさや大切さ、地産地消の意義を学ぶことができました。

13 安来市 平成22年度 米のモニタリング調査・食味調査の実施

やすぎ農業協同組合主催の「平成22年度おいしいお米グランプリ」に教員と学生全員が協力して、JAやすぎ生産のお米の食味調査を実施しました。学生にとっては、地元産の米や食味調査法について、講義・実習で学んだことを体験できるよい機会となりました。



14 農林水産省・島根県 平成21年度 第4回食育推進全国大会

食育推進全国大会は、食育基本法に基づき、食育月間に毎年行われる全国規模の食育推進行事です。第4回は島根県で開催され、健康栄養学科の教員と学生全員が参加しました。「わが家の一流シェフ」や「スローフードプロジェクト」、「食育ニッポン!おいしいステージ」、「食リンピック」など様々なコーナーで学生一人一人が食の大切さを伝え、学生自身も食への関心度を高めるとともに、食育の現状や課題について学びました。



15 松江保健所 平成21年度 1日食品衛生監視員

島根県松江保健所主催の「1日食品衛生監視員」に教員と学生が参加しました。実際にスーパーを巡回する保健所スタッフに同行し、食品衛生監視業務を見学しました。食品表示や食品の定義、保健所の食品衛生監視事業について理解を深めるよい体験となりました。



学外への協力事業（島根県・その他の機関との連携）

16 生協しまね 平成24年度 コープフェスティバル

コープフェスティバルは、消費者と生産者、販売者の交流の場として開催されています。平成24年度は、健康栄養学科の教員と学生で参加し、子ども達に食育を行いました。「食べ物ゲームで遊ぼう!学ぼう!〜食のオリンピック〜」と題し、「お買い物旬あてゲーム」、「B文字食べ物パズル」を行い、オリンピックにちなんで野菜メダルを作成し、配りました。



17 島根県・島根県農業共同組合中央会、全国農業協同組合連合会島根県本部 平成23年度～「しまねオーガニックフェア」

「しまねオーガニックフェア」は、有機農業を「見て」「触れて」「味わって」もらうことにより、日々の生活の中で忘れてしまいがちな食卓の先の風景について、もう一度見つめ直すきっかけづくりをすることを目的に平成23年度から開催されることとなった事業です。毎年、学生がボランティアとして参加し、生産者、消費者、販売・流通業者等の方と交流し、島根県の農業、地元産物について学んでいます。



18 松江商工会議所 平成23年度 「まつえ駅前活き活き青空」への参加協力

「まつえ駅前活き活き青空」は、地元産品を知ってもらい地産地消を推進することを目的に毎年行われています。平成23年度は、教員、学生が参加し、「県短みのりの収穫祭」として、食育ゲームや、島根県産品を使った手作りのそば粉クッキー・そば粉マドレーヌの販売を行いました。当日はあいにくの雨模様でしたが、多くの方々に立ち寄って頂き好評でした。



19 美味しさと健康のサイエンス —サイエンス・パートナーシップ・プログラム (SPP) 地元の中学校と連携—

平成25年度「サイエンス・パートナーシッププログラム (SPP)」に「美味しさと健康のサイエンス」が採択され、地元の中学校と連携してサイエンスの体験学習を実施しました。テーマは「食・美味しさ・健康」とし、3日間連続で「講義と実験」と「調理と喫食」の内容を盛り込んだ参加型のプログラムを企画しました。

3日間の講座カリキュラム



1日目

牛乳の科学とおいしさ

- ・牛乳の成分を分析してみよう
- ・島根県牛乳料理コンクール最優秀料理2品を調理しよう!



2日目

味覚とうまみの生理学

- ・あなたの味覚を測定してみよう
- ・だしを使った調理と味の比較をしてみよう



3日目

食事と身体の収支

- ・あなたの身体のエネルギー効率を調べてみよう
- ・自分に合った献立を選んでみよう

20 小学校 平成19年度～ 乃木小学校での食育授業

平成19年度から毎年1回、教員と学生で、乃木小学校の5年生を対象として、食育授業を行っています。平成25年度は、「からだのリズムと朝ごはん」をテーマとする食育授業を行いました。朝ごはんの良いところやバランスの良い朝ごはんを児童と一緒に考えながら勉強しました。



保育学科

1 第40回を迎える ほいくまつり

平成17年度 文部科学省GP(特色ある教育)採択
「全人的保育者養成を目指して
—ほいくまつりという総合表現活動の取り組み—」

「ほいくまつり」とは

- ◆保育学科の教育理念を体現するシンボリック的教育活動です。
- ◆島根県民会館で毎年6月に開催しており、大ホールは子どもたち・保護者・保育関係者の皆様に溢れます。
- ◆構成は、歌唱、影絵劇、劇、そして幕間を繋ぐ司会。40年間、変わらない4本柱として受け継がれています。
- ◆本学が独自に置く専門科目「児童文化」の一環であり、保育学生全員が自治的・自主的に取り組み、全保育教員が専門的立場から指導・助言をする、総力をあげての活動です。



取り組みの特長

- ◆6月開催には大きな意味があります。この取り組みを通じて、1年生は入学間もない時期に「保育」の責任と難しさ、そして喜びと夢に衝撃的に出会います。2年生は本格的に保育に向かう意欲と意味と自信を獲得していきます。楽とは言えない準備期間を乗り越えて迎える公演では大きな感動を味わいますが、それはゴールではなく、深い保育の学びへの契機となり、始まりとなっています。
- ◆40年の歴史により、近年では幼少期に「ほいくまつり」を観た方が我が子連れて再び訪れるといったお話をよく耳にします。また、親子二代にわたって「ほいくまつり」に取り組むといったことも出現しています。
- ◆保育を志す県内高校生の認知度は高く、中・高校生が保育者という将来の夢に出会う場となっており、この取り組みは乳幼児・保護者・保育関係者、そして保育者を夢見る若者に対して、限らない魅力を放っていると言えるでしょう。

2 虐待の早期発見と支援に向けて —学術教育研究特別助成金個人研究—

全国の児童相談所が対応した児童虐待の件数は、21年連続で過去最多を記録し、平成23年度は6万件に迫ろうとしています。島根県内の児童相談所が平成23年度に対応した児童虐待の相談件数は161件ですが、決して少くはありません。また、全国では虐待死する事例も続きますが、厚生労働省の調査によれば、その4割強が0歳児です。不幸な事例を重ねないためにも児童虐待の早期発見とその支援が必要です。そのためには、ケースワークの初期から支援の方向性を打ち出すまで、ケースワーク過程と一体化したアセスメントが必要です。本研究では、現在島根県の児童相談所が用いているアセスメントの有用性を検証するとともに、新たなアセスメントのあり方や現場のケースワーカーのアセスメント力を伸ばすための研修の開発を目指しています。



3 島根県保育所(園) 幼稚園造形研究会への協力

毎年11月下旬に本学アリーナに島根県内全域の保育所(園)、幼稚園から乳幼児の描画作品約3,000点を集めて、作品審査会を行います。保育学科造形担当教員も審査員として加わるこの公開審査会は保育者の造形指導研修の側面も持たせているため、県内各地域から多くの現職保育者が参加します。選ばれた特選作品144点は、島根県立美術館にて展示し一般に公開します。また展示対象となった作品を掲載した画集を毎年刊行し、県内の保育・教育現場において造形指導の参考資料として活用してもらっています。



4 一学術研究特別助成金共同研究一 保幼小連携教育体制における多様性の研究



平成25年度学術研究特別助成金共同研究として、国の「子ども・子育て会議」会長である無藤隆客員教授から、平成27年度を目途に進められている国の保育制度改革を学び、合わせて松江市教育委員会と子育て課による「松江市接続期カリキュラム」研究発表を受けて、県内専門職とともに、新たな自治体規模で行われる保幼小連携教育の仕組みのあり方について協議しました。さらに、保幼小連携の流れから外れやすい認可外の小規模保育事業を視察研究し、島根県内における保育の実態の多様性を探求しています。

5 一学術研究特別助成金共同研究一 島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題



「子ども・子育て新システム」三法が平成24年8月に制定され、保育制度改革が進む中、島根県における保育士・幼稚園教諭の2年制4年制免許資格者の実態はどのようになっているのか、近年2か年間の採用動向、今後の人材養成に関する雇用者側の意識も含めて、調査しました。このような制度改革が保育現場でどのように受け入れられるか、養成課程の新たな課題は何か、本調査をもとに検討を進めています。

6 島根県内における 保幼小連携教育の現状と課題 一学術教育研究特別助成金共同研究一

平成24年度学術教育研究特別助成金共同研究として、島根県内と鳥取県の幼保一体化施設(保育所・幼稚園)を視察研究。子ども・子育て新システム関連の法律改正を踏まえて、今後の新たな保幼小連携教育について、研究を進めています。この研究は、島根県健康福祉部青少年家庭課・島根県教育庁義務教育課・松江市健康福祉部子育て課との連携協議を踏まえて進められています。

視察施設

- 倉吉市鳥取短期大学附属認定こども園
- 隠岐の島町立認定こども園原田保育所
- 安来市立認定こども園荒島幼稚園・保育所
- 松江市立掛屋幼児園(幼稚園・保育所)
- 松江市立意東幼児園(幼稚園・保育所)
- 松江市立出雲郷幼児園(幼稚園・保育所)
- 松江市立幼保園のぎ
- 松江市立しんじ幼児園
- 雲南市立加茂幼稚園
- 出雲市立中央保育所・幼稚園
- 浜田市認定こども園日脚保育所
- 浜田市認定こども園あさひ子ども園

この共同研究では、無藤隆客員教授を交えて、島根県内の保幼小連携教育について研究協議を実施し、さらに新たな就学前教育の充実を目指して研究を進めます。



写真:松江市立しんじ幼児園

7 松江初 保育専門職育成のための 「表現とコミュニケーション」 ワークショップ・プログラムの開発 一地域貢献プロジェクト事業一

(松江市健康福祉部子育て課、NPO法人あしぶえとの共同事業)



このプロジェクトは「初任者レベル」の保育・幼児教育者にターゲットを絞った研修プログラムを開発し、離職しやすい「1年以上3年未満」の節目以降も成長を続けるステップを支援することを目的としたものです。若手保育・幼児教育者にとって必要性が認められる【自己啓発・自己確認につながる体験】【「自分の声」「自分の表情・しぐさ」「相手の表情しぐさ」「相手に応答し会話する自分の体と言葉」などの気づきをもたらす活動】【「マニュアルのないところでの表現力」に重点を置き、「表現・コミュニケーション」力の育成を可能にするプログラムとして、NPO法人あしぶえの指導により「インプロ・ゲーム」を導入しました。ワークショップは第1回と第2回に分けて同一参加者で体験し、第1回と2回間の保育場面への影響も含めて自己評価を実施するよう設計し、段階的な変容過程を分析検討を行います。それらの成果等から、「幼児教育者スタート・プログラム」としての「表現・コミュニケーション」ワークショップのモデル・プログラムを構成し、報告書によってこの成果を広く公表しました。

8 島根県内における 「幼保一体化保育」体制の現状と課題 一学術教育研究特別助成金共同研究一

平成23年度の学術教育研究特別助成金共同研究として島根県内ですでに「幼保一体化保育」を実施している公私立施設(保育所・幼稚園)の保育実践を学ぶワークショップを開催。県内各地から99名の参加者が集い、「幼保一体化保育」の現状と課題を学びました。ワークショップ参加者の参加前と後を比較する意識調査の結果から、幼保一体化保育の課題を研究協議しました。



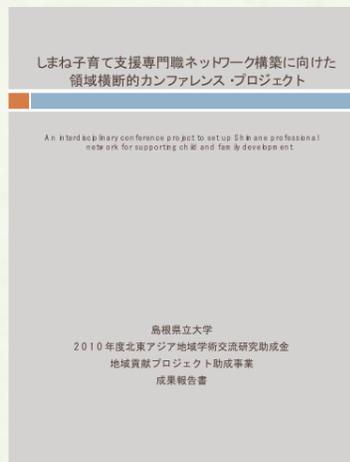
総合文化学科

9 しまね子育て支援専門職ネットワーク構築に向けた領域横断的カンファレンス・プロジェクト

—地域貢献プロジェクト事業—

平成22年度地域貢献プロジェクト助成事業として、「子育て支援再養成講座」の修了者を中心に、「支援現場の研修はいかにあるべきか」をテーマにカンファレンスを開催。

地域の障害児保育に関わる保護者、支援者の聞き取り調査も踏まえて、新たな研修のあり方を検討しました。検討結果は、報告書として公表しています。



10 教員と学生による地域支援ボランティア

保育学科学生を中心とする松江キャンパス学生は、平成23年度までの島根県教育庁特別支援教育課による「学生支援員」事業に呼応して、安来市、東出雲町・松江市・出雲市等の中学校・小学校・幼稚園で、発達障害の子ども達の支援にあたりました。また島根県立大学短期大学部松江キャンパスと松江市立乃木小学校、松江市立湖南中学校の連携事業に呼応して、乃木小学校での「昔遊び」交流事業への参加支援、湖南中学校の地域ボランティアへの参加をすすめています。

保育学科学生は、幼保園のぎの運動会等の行事への参加支援もすすめています。



1 小泉凡教授のハーン研究と地域貢献

ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)を島根の人的資源として観光文化の振興に生かす実践研究に取り組んでいます。

NPO法人松江ツーリズム研究会と連携した「松江ゴーストツアー」は、ハーンが再話した怪談ゆかりの地を語り部の話を楽しみながら歩く夜のツアーで、5年間で210回実施し、3437人が参加する(2013年12月末現在)人気の着地型観光プランとして定着しています。

また、ハーンの開かれた精神性を現代アートで表現する造形美術展“The Open Mind of Lafcadio Hearn”を、松江市と連携し、2010年から、松江、ニューヨーク、ニューオーリンズなどハーンゆかりの各地で開催しています。



2 へるん探究

(総合文化学科2年・1単位)

山陰地方にゆかりの深い作家へるん(ラフカディオ・ハーン/小泉八雲)の足跡地の探訪を通し、ゆかりの地におけるハーン文化資源的活用について探求することを目的としています。

具体的には、島根県の出雲大社・日御碕神社・一畑薬師、鳥取県日野町の幽霊滝、琴浦町の八橋海岸、大山町の妙元寺などのゆかりの地を前期・後期各1回ずつ訪問し、現地専門家の指導のもと、地域の関係者との交流を行っています。



3 「出雲神話翻訳研究会」

—地域貢献プロジェクト事業—



松江キャンパス地域連携推進センターでは、2011年度より、「古事記1300年」事業に合わせ、「古事記」の出雲神話を地元の大学である本学研究者と地域の専門家が共同で、現代語訳・英語訳を試みつつ読み解く研究プロジェクトを立ち上げ、その成果の社会への還元をめざしています。

2013年度までの3年間に松江キャンパス公開講座「出雲神話翻訳研究会」(現代語訳解説12回、英語訳解説9回、計21回)の開講と研究会により遂行しています。現代語訳・英語訳の進行に合わせて、翻訳成果はウェブサイト「出雲神話翻訳研究会」<http://izumo-kojiki.com/>で公開しています。なお、2014年度は公開講座「風土記の語る神話—出雲国風土記を中心に<全5回>」を開講します。

4 「魅力ある松江の観光を考える」シンポジウムへの参加

平成25年11月4日、松江観光の魅力向上を目的としたシンポジウム(主催:松江観光協会他)が、島根県民会館にて開催されました。本学総合文化学科からは、観光文化ゼミ(2年生)の来海靖未さん、大野光季さん、柿田有香さんが参加し、彼女たちが開発したカラコロ工房の新たな観光土産「ピンクのポストクッキー」についての報告を行いました。会場には、県内外から観光やまちづくりの関係者が集まり、彼女たちの発表を熱心に聞いていました。



5 観光フィールド・トリップ



島根県内の観光地を、地元ならではの情報も加えて、外国人観光客に英語で案内する。このような目的で、英語文化系1年生が外国人ゲスト達と雲南市を訪れました。オロチを退治したスサノオノミコトが建てた「日本初の宮の須我神社」、たたら製鉄について知ることができる「鉄の歴史博物館」、自然いっぱいの「竜頭が滝」や「鬼の舌震」などを巡る1泊2日の旅行でした。事前研修で案内の練習をし、旅行中は英語でガイドの実践をし、旅行後は英語で報告書作成をするというプログラムです。地域観光の国際化に少しでも貢献できればと考えています。

6 アジア文化交流

島根県立大学浜田キャンパス「日本語日本文化研修」プログラムで来日する韓国蔚山大学校の学生と短大生が交流をしながら学びます。日韓の学生が約20名ずつ参加し、1泊2日の合宿を行ない、出雲大社見学、松江市内ウォーキングツアー、料理等を通じて交流を深め、互いの国の文化理解へとつなげていきます。ウォーキングツアーでは、短大生がテーマに基づいて松江を紹介するプランを立てて案内することで、松江の文化についての知識を深めます。授業の最後には、日韓の学生が協力してパワーポイントを使った口頭発表を行ない、ウォーキングツアーを中心に成果を提示します。



7 アジア文化演習

夏季休暇中に1週間、日本に近くて緑の深い中国(北京)と韓国(ソウル・仁川)を訪れます。北京では、世界遺産(故宫博物院、万里の長城)の見学、京劇や雑技などの民族文化の鑑賞を行なうことで、伝統文化への理解を深めます。さらにそこに住む人々の暮らしを理解するために、地下鉄や路線バスを使って下町や市場などにも足を伸ばし、人々と交流しながら、日常生活について観察・記録をします。異文化体験をすることで他者理解を深め、口頭発表やレポートを通じて自己表現をする力も同時に磨いていきます。



8 地域探検学

夏季休暇中に5日間、集中授業を行います。初日は、学内で奥出雲町の歴史や産業などについて講義を受けます。2日目からは、島根県仁多郡奥出雲町を訪問します。午前中たたら製鉄について学んだ後、午後はグループごとに地域を定めてフィールドワークを行います。3日目は、午前中に前日と同じ地域のフィールドワークを行い、午後はその成果を取りまとめ、夕方には地域の人々をお招きして、成果発表会を行います。4日目は、リンゴ農家や牧場などで農作業体験を行ってから、短大へ戻ってきます。5日目は、グループごとに成果の発表を行い、お世話になった方々にお礼状を書いて、全日程を終了します。学生たちは、地域の人々との触れ合いを通して教室では学べない多くのことを体得し、フィールドワークの楽しさを実感するのです。



9 日本古典文学を歩く

なじみある島根の地名の歴史や由来を理解するために、『出雲国風土記』は最適なテキストです。この授業では、出雲大社に遡る由来をもつ熊野大社を中心に、神魂神社、発見までに様々な説があった国庁跡や山代二子塚古墳、古代王陵の丘などを、また出雲のスサノオ神を考えるため須佐神社や松本一号墳、クシナダヒメの鎮座地、「八雲立つ…」の須我神社などをめぐってその地勢や規模を確かめ、複雑な古代出雲の形成過程を歩いて辿ります。学生はレポートと出雲古代マップ、写真や絵図をまとめたフィールドノートを作成し、島根の古代史、神話伝承を体感していきます。



10 日本文化演習

芸術文化の理解を目的として、島根県立美術館の見学を実施しました。美術における女性の表現や、郷土の画家の作品、また水を画題とする絵画等を鑑賞しました。また、宍道湖畔の景観と調和した美術館の建築を通して、「水と調和する美術館」という島根県立美術館の基本的な性格の一つに、触れることができました。今後も、地域の文化資源を見つめる機会となる授業を目指します。



11 おはなしレストラン、はじまるよ!

文部科学省GP (Good Practice) 採択

～読み聞かせによる人間力の育成～

「おはなしレストラン」は、絵本の読み聞かせを通して、学生の総合的な人間力を育成する松江キャンパスの特色ある取組です。平成21年度に文部科学省により大学教育推進プログラム(GP)に選定され、それまでの取組を内容・規模ともに飛躍的に発展させることができました。取組の基盤をなす科目「読み聞かせの実践」も、もともと総合文化学科で行っていましたが、3学科共通科目(1生前期・後期)として開講し、多くの学生が受講しています。



12 絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」の誕生

平成22年4月、松江キャンパスに、絵本専門の図書館「おはなしレストランライブラリー」をオープンしました。学生が読み聞かせを実践するために利用するのはもちろんですが、一般の方々にも一般の図書館と同様にご利用いただいております。

毎週日曜日には学生たちが読み聞かせを行なう「おはなしのじかん」を開催し、大勢のお子様連れでにぎわっています。司書の丁寧な対応、すぐれた絵本の選定、明るく木のぬくもりの感じられる空間など、おかげさまで利用者の方から好評をいただいています。絵本を仲立ちにして学生と地域の皆さまが触れ合う〈交流拠点〉として、これからも大切にしていきたいと思っております。



はじまるよ～
はじまるよ～

13 第98回 全国図書館大会 島根大会における分科会の共催

第98回全国図書館大会(主催:社団法人日本図書館協会 ほか)が平成24年10月25日・26日の2日間にわたって、島根県民会館ほかを会場に開催されました。本学(松江キャンパス)では、大会2日目に、日本図書館協会図書館教育部会との共催で、第10分科会(図書館学教育)を大講義室で開催しました。

午前の部では、分科会のテーマである「新しい育成カリキュラムの開始と地方の司書課程・司書講習」のもと、本学からは総合文化学科の教員や学生図書委員会の学生を中心に、「島根県立大学短期大学の司書養成カリキュラムについて:専門科目『図書館情報学』における新課程への移行と課題」(総合文化学科講師 石井大輔)、「おはなしレストラン、はじまるよ 授業『読み聞かせの実践』とその成果」(総合文化学科教授 マユアキ)、「学生図書委員の活動から見えてくる図書館-他とのつながりを求めて-」(学生図書委員会周藤 彩[総合文化学科2年]、山中多希子[総合文化学科1年])の報告を行いました。午後の部では、シンポジウム「地方の図書館専門教育の未来を考える」が開催され、午前の部の議論をふまえた上で、将来について活発な議論が交わされました。

また、これらのプログラムに合わせて、おはなしレストラン・ライブラリーでは、分科会参加者による見学が行われました。専門職員からの説明の後には、ライブラリーの地域に根ざした活動について参加者から多くの質問がされていました。



14 文化情報誌 のんびり雲

総合文化学科では、学科発足の前年の2006年から教育活動のひとつの柱として文化情報誌『のんびり雲』を発行しています。

本誌は学生と教員が協同して制作にあたりますが、企画、取材から原稿執筆、誌面制作に至るまで、印刷・製本以外のすべての作業を自力でこなしているのが特徴です。誌面のレイアウト・デザインには専門のパソコンソフトAdobe InDesignを使います。こんな雑誌を発行している大学は全国のどこを探しても、おそらくないと思います。

毎年20人程度の学生が制作に関わります。1年生は課外活動的に参加しますが、2年生向けには「文化情報誌制作Ⅱ」という『のんびり雲』の制作を課題とした授業科目があって、この科目を取って記事を書くことで単位がもらえます。

本誌の合い言葉は「文化資源の発掘」です。有名で評価の定まった文化財・文化遺産ではなく、地味で平凡な、身近にあってなかなか注目されることのない「小さな文化」の発掘を中心に据えようというわけです。対象地域は山陰両県で、ほとんどの記事は学生たちが実際に現地に足を運んで(教員が同行)取材して書きます。

『のんびり雲』は年に1回、10月半ばに発行しています。頁数は80～90頁、全頁カラーで写真をふんだんに掲載したビジュアルな雑誌です。発行部数は2500部、山陰両県の主要書店で販売も行っています。



定価420円

新たな学修ニーズへの対応

社会教育

1 椿の道アカデミー

1992年に「短大火曜講座」としてスタートした松江キャンパス公開講座は、2012年で20周年を迎えました。同年には記念事業として、名誉教授特別公開講座「過疎地の地域福祉」(高橋憲二)・「大人のための源氏物語」(三保サト子)、松江出身の俳優佐野史郎と作曲家・ギタリストの山本恭司による、朗読と音楽「KWAIDANという名の『神話』」を開催しました。

公開講座には毎年のべ2,000人近い受講者が参加し、社会人の生涯教育の場として地域に定着しています。2013年度は12講座が開講され、その中には貸し切りバスを利用した文化資源探求講座「出雲神話をあぐるく」もありました。今後も公開講座の開催を通して、会員および広く地域の皆様に学び楽しむ場を提供していきます。



2 卒後教育としての 「栄養士のためのステップアップ講座」

この講座は、管理栄養士国家試験の合格を目指す栄養士の卒後教育として、島根県内の栄養士を対象として開催しています。ここ5年間の述べ参加者数は100名を超えました。本学HPの在学生・卒業生総合支援web『Camellia(カメリア)』に質問掲示板を立ち上げ、日程が合わない、遠方で来れないという方でも、随時質問ができるよう対応しています。合格後も情報提供を希望する人が多く、卒業後や国家試験合格後も繋がりを絶やすことなく、地域に貢献できる講座を目指しています。

3 出雲キャンパスとの連携事業 社会人の学び直しニーズ対応 「子育て支援専門職再教育」事業

—文部科学省委託事業—

平成19年度から21年度までの文部科学省委託事業として、出雲キャンパスと連携して「子育て支援」専門職再養成講座を実施し、社会人専門職者向けカリキュラムを開発しました。

子育て支援現場でアセスメントや支援に取り組む多くの専門職が集い、産後うつケア・虐待予防コース、食育実践指導コース、早期発達支援コースのカリキュラムで、基礎課程15時間、専門課程30時間を履修し、基礎課程1,038名、専門課程345名の地域専門職が修了しました。



受講者の主な職種

- 看護系(助産師/保健師/看護師等)
- 栄養系(栄養士/管理栄養士等)
- 保育系(保育士/幼稚園教諭等)
- 特別支援学校系(特別支援学校教諭/養護学校教諭/盲・聾学校教諭等)
- その他教育医療系(小中学校教諭/医師/言語聴覚士/作業療法士等)



4 地域とともに育む「ふるさと教育」共同プロジェクト —北東アジア地域学術交流研究助成金—

「地域資源と協同的体験を保育教育課程に 生かす「ふるさと教育」の研究

—島根県益田市モデル—

本研究は、益田市保育研究会(ふるさと教育研究委員会)による「ふるさと教育の生涯モデル」を基盤としつつ、地域研究や保育研究に関わる研究者、地元専門職、そして社会教育に関わる地元団体が共同プロジェクトを組んで、「ふるさと教育」カリキュラムの支援システムの作成、保幼小発達段階におけるふるさと教育の協同的体験の発達の意義の検討、を目指しています。地域資源と保育教育現場での活動実態を研究協議し、益田市をモデルとしたふるさと教育の「Webシーズ・マップ」作成によって、カリキュラムの具体化を目指します。



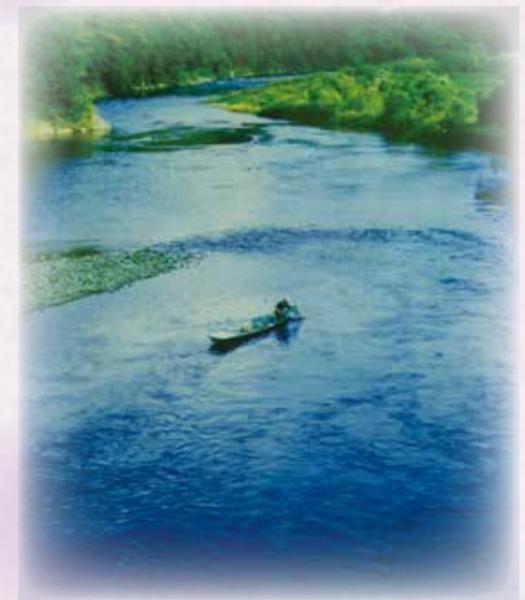
地図上で、「匹見川と高津川の合流地点」をクリック
地域の環境資源情報(写真等)
自然環境・水質の解説...
動植物の写真等...

これまでに行われた保育・教育実践
西益田小1年、若葉・神田保育園
主な活動内容
「高津川を作ろう:砂遊び」

指導のめあて
「保育内容・環境」.....
「保育内容・人間関係」..
1年「生活」.....
5年「理科」.....

活動記録(写真など)と成果についての記事
協力団体や進め方について

活動のシーズの表示事例
(益田市の保育より)



「地域研究と教育」 研究者一覧

| No. | 課 題 名 | 課題関係者（職名：H25年度現在） |
|-------------------|--------------------------------------|---|
| ＜地域の「食」と栄養の専門研究＞ | | |
| 1 | 島根県産「つや姫」のおいしさに関する研究 | 健康栄養学科 |
| 2 | 西条柿の食品開発研究 | 赤浦和之教授 |
| 3 | しまね和牛の食味研究 | 籠橋有紀子准教授、石田千津恵助教、川谷真由美助手、水珠子助教 |
| 4 | 大学と行政が連携して行う地域交流型食育推進の検討 | 名和田清子教授、川谷真由美助手 |
| 5 | 地域振興に活かす特許 | 籠橋有紀子准教授、直良博之教授、名和田清子教授 |
| ＜教員と学生による患者会支援活動＞ | | |
| 6 | 小児糖尿病大山サマーキャンプ | 名和田清子教授 |
| 7 | 炎症性腸疾患患者会食事学習会 | 名和田清子教授 |
| ＜学外への協力事業＞ | | |
| 8 | 「やすぎどじょう」を使用したレシピの考案 | 石田千津恵助教、名和田清子教授 |
| 9 | 松江市健康フェスティバルへの参加協力 | 名和田清子教授、川谷真由美助手 |
| 10 | 松江市・松江市の食育推進実行部隊である「食部会」での活動 | 名和田清子教授 |
| 11 | 雲南市：「うなん鯖パンプロジェクト・うなんスイーツの杜プロジェクト」 | 名和田清子教授、石田千津恵助教 |
| 12 | 奥出雲町：「野菜産地ツアー」への参加協力 | 名和田清子教授 |
| 13 | 安来市：米のモニタリング調査・食味調査の実施 | 安藤彰朗教授、石田千津恵助教、川谷真由美助手 |
| 14 | 農林水産省・島根県：第4回食育推進全国大会 | 石田千津恵助教、川谷真由美助手、健康栄養学科 |
| 15 | 松江保健所：1日食品衛生監視員 | 安藤彰朗教授、石田千津恵助教、川谷真由美助手 |
| 16 | コープフェスティバルへの参加 | 名和田清子教授、水珠子助教 |
| 17 | しまねオーガニックフェア | 名和田清子教授 |
| 18 | 松江商工会議所：「まつえ駅前活き活き青空」への参加協力 | 川谷真由美助手、安藤彰朗教授、直良博之教授、石田千津恵助教 |
| 19 | サイエンスパートナーシップ(SPP) | 健康栄養学科 |
| 20 | 小学校：乃木小学校での食育授業 | 直良博之教授、川谷真由美助手、水珠子助教 |
| 保育学科 | | |
| 1 | 「全人的保育者養成を目指して—ほいくまつりという総合表現活動の取り組み— | 福井一尊准教授 |
| 2 | 虐待の早期発見と支援に向けて | 藤原映久講師 |
| 3 | 島根県保育所(園)・幼稚園造形研究会への協力 | 福井一尊准教授 |
| 4 | 保幼小連携教育体制における多様性の研究 | 山下由紀恵教授、岸本強教授、福井一尊准教授、藤原映久講師、矢島毅昌講師 |
| 5 | 島根県における保育士・幼稚園教諭の採用実態と人材養成の課題 | 山下由紀恵教授、岸本強教授、小山優子准教授、福井一尊准教授、矢島毅昌講師 |
| 6 | 保幼小連携教育の現状と課題 | 山下由紀恵教授、岸本強教授、白川浩教授、福井一尊准教授、藤原映久講師、矢島毅昌講師 【学外】島根県教育庁義務教育課、島根県健康福祉部青少年家庭課、松江市教育委員会小中一貫教育推進課、松江市健康福祉部子育て課、益田市保育研究会 |

| No. | 課 題 名 | 課題関係者（職名：H25年度現在） |
|-----------|---|--|
| 保育学科 | | |
| 7 | 保育専門職育成のための「表現とコミュニケーション」ワークショップ・プログラムの開発 | 山下由紀恵教授、福井一尊准教授、(故)森山秀俊教授 【学外】NPO法人あしぶえ、松江市健康福祉部子育て課 |
| 8 | 「幼保一体化保育」体制の現状と課題 | 山下由紀恵教授、岸本強教授 【学外】島根県健康福祉部青少年家庭課、松江市健康福祉部子育て課、雲南市健康福祉部子育て支援課 |
| 9 | しまね子育て支援専門職ネットワーク構築に向けた領域横断的カンファレンス・プロジェクト | 山下由紀恵教授、名和田清子教授、出雲C：三島みどり元教授 |
| 10 | 教員と学生による地域支援ボランティア | 保育学科 |
| 総合文化学科 | | |
| 1 | 小泉凡教授のハーン研究と地域貢献 | 小泉凡教授 |
| 2 | へるん探求 | 小泉凡教授、松浦雄二准教授 |
| 3 | 出雲神話翻訳研究会 | 藤岡大拙名誉教授、小泉凡教授、小玉容子教授、松浦雄二准教授、村上桃子講師、クリス・ラング講師、竹森徹士元准教授 |
| 4 | 「魅力ある松江の観光を考える」シンポジウムへの参加 | 工藤泰子准教授 |
| 5 | 観光フィールド・トリップ | 小玉容子教授、松浦雄二准教授、マユアキ教授、クリス・ラング講師 |
| 6 | アジア文化交流 | 塩谷もも准教授 |
| 7 | アジア文化演習 | 鹿野一厚教授、塩谷もも准教授 |
| 8 | 地域探検学 | 鹿野一厚教授、小泉凡教授、工藤泰子准教授、塩谷もも准教授 |
| 9 | 日本古典文学を歩く | 村上桃子講師 |
| 10 | 日本文化演習 | 渡部周子講師 |
| 11 | おはなしレストランはじまるよ！—読み聞かせによる人間力の育成— | 岩田英作教授、マユアキ教授 |
| 12 | 絵本専門図書館「おはなしレストランライブラリー」の誕生 | 岩田英作教授、マユアキ教授 |
| 13 | 全国図書館大会島根大会における分科会の共催 | 石井大輔講師 |
| 14 | 文化情報誌「のんびり雲」 | 大塚茂教授、鹿野一厚教授 |
| 社会教育・地域貢献 | | |
| 1 | 椿の道アカデミー—20周年を迎えた社会人向け公開講座— | 小泉凡教授 |
| 2 | 卒後教育としての「栄養士のためのステップアップ講座」 | 健康栄養学科 |
| 3 | 出雲キャンパスとの連携事業 社会人の学び直しニーズ対応 「子育て支援専門職再教育」事業 | 山下由紀恵教授、名和田清子教授、高橋憲二元教授、出雲C：三島みどり元教授、出雲C：濱村美和子講師、出雲C：山下一也教授 【学外】日本助産師会島根支部、島根県栄養士会、島根県保育協議会、島根県国公立幼稚園長会、島根県特別支援学校、島根県看護協会(保健師職能)、島根県社会福祉協議会福祉人材センター、松江市健康福祉部子育て課、松江市教育委員会特別支援教育課、出雲市地域振興部少子対策課、浜田市市民福祉部子育て支援課、島根県健康福祉部健康福祉総務課 |
| 4 | COC事業共同研究 地域とともに育む「ふるさと教育」共同プロジェクト—北東アジア地域学術交流研究助成金— 「地域資源と協同的体験を保育教育課程に生かす「ふるさと教育」の研究—島根県益田市モデル— | 山下由紀恵教授、鹿野一厚教授、矢島毅昌講師 【学外】白梅学園大学大学院 無藤隆教授、島根県中山間地域研究センター、益田市保育研究会、益田市教育委員会、益田市福祉環境部、アンダンテ21、益田市市民活動推進協議会 |